法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-09

国際成人教育協議会の発展過程におけるリージョン組織との関係に関する研究

荒井, 容子 / ARAI, Yoko

(雑誌名 / Journal or Publication Title)
科学研究費助成事業 研究成果報告書
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
6
(発行年 / Year)
2019-06-21

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３２６７５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2018
課題番号：２６３８１１０１

研究課題名（和文）国際成人教育協議会の発展過程におけるリージョン組織との関係に関する研究

研究課題名（英文）A Research on the development of International Council for Adult Education with relation to its regional organization

研究代表者
荒井　容子（ARAI, Yoko）

法政大学・社会学部・教授

研究者番号：７０２８７８３７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：最長、最大の国際的成人教育組織である国際成人教育協議会の発展史の研究の一環として、そのリージョン組織の発展史を調査し、同協議会の発展史との関係を考察した。８つのリージョンのうち、現在、リージョンを明確に代表して同協議会と関係している組織が存在するのはアジア、ヨーロッパ、ラテンアメリカリージョンのみであり、リージョン組織の創設、継続は容易ではないこと、既存のリージョン組織も、同協議会と関連をもちつつ、しかし同協議会創設以前から、あるいは創設後でも、リージョン内の各国成人教育運動の交流・支援として生まれ、政策提言における共同など、リージョンの特徴に呼応した独自の活動を展開していることも分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
成人教育は各国内での運動によって推進され、これが政策として受容されてきたが、1972年に発足した国際成人教育協議会はユネスコの活動に関わりつつも独立して、国を超えた成人教育の運動の交流を促進し、発展させてきた。その発展において同協議会が重視してきたリージョンごとの組織が、どのように創設され活動を展開してきたのかを検討することは、成人教育の国際的運動の展開方法とその意義を確認する上で不可欠である。今回このリージョン組織自体が国を超えた成人教育運動の一つであり、その創設・展開は容易ではないが、世界的組織との関連をもちつつ独自に創設され、運動を展開し得ることを確認でき、今後の展望に有意義だった。

研究成果の概要（英文）：This research grasped the histories of the regional organizations of International Council for adult education (ICAE) and analyzed the relation between the regional organizations and ICAE. Only three of eight regions, namely Asian, European and Latin American regions have own regional organization that is taken to represent the national organizations of each region now. It has come clear the difficulty to make some regional organization and continue them. It has also come clear that even the existed regional organizations have not been founded for the affiliate organizations. They have founded for their own necessity and have explored their own activities before the funding of ICAE or even after it and they have explored the exchange of experiences, among national movements, have supported national movements and have made advocacy together in keeping with ICAE movements.

研究分野：社会教育学

キーワード：成人教育運動　生涯学習　社会教育　国際成人教育協議会

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

成人教育の国際的ネットワークとしての国際成人教育協議会（ICAE）の、すでに 40 年以上経過したその発展史は、成人教育において今後ますます重要度を増す国際的運動にとって、その今後のあり方を検討するための貴重な検討材料となる。しかしこの ICAE に関しては日本国内はもとより、海外においても、その本格的な研究が行なわれてこなかった。そこで報告者は 2004 年からこの研究に着手し、2010 年度から 2013 年度には科学研究費の支給を受けて研究を進めた。その成果の一端は、日本社会教育学会第 60 回研究大会自由研究発表（2013 年 9 月 28 日）で公表した。

ところで、この ICAE のメンバーは主に各国の成人教育に係る市民社会組織であるが、それらのメンバーの中にはリージョン規模の組織も含まれている。またメンバーとなっている各国の組織は世界を複数に区分したリージョンの枠内に位置づけられている。さらに、ICAE の運営を担う理事会のメンバーとなる副会長は、ICAE が定めたリージョンごとに選出されている。報告者は 2010 年度から 2013 年度までの研究を通じて、ICAE の発展についての本格的分析には ICAE のリージョン組織についての研究が不可欠であることを認識し、若干の調査を試みたが、本格的な調査には至っていなかった。なお、ICAE 本体の発展史についての研究は、報告者の研究以外にはまだ行われておらず、ICAE のリージョン組織についての研究は、国内外ともに、その本格的な研究は行われていなかった。そして ICAE の発展とリージョン組織の発展との「関係」に関する分析はまったく手つかずの状況だった。

２．研究の目的

ICAE に先立って誕生していたアジアリージョンとヨーロッパリージョンのそれぞれの成人教育組織、ICAE 創設後に ICAE の働きかけを受けて誕生したと思われるラテンアメリカ、カリブ海、アフリカ、北アメリカリージョンそれぞれのリージョン組織の発展過程を明らかにし、それらの発展過程と ICAE との関係をふまえて、ICAE の発展史を解明すること、これによって、成人教育の国際的運動のあり方の解明に寄与することを目的とした。

３．研究の方法

本研究では三つの方向から研究を進めた。

（１）リージョン組織の調査

各リージョン組織の歴史・実態について、ICAE に参加している各国組織の歴史・実態も視野に入れつつ、それぞれのリージョンに関する資料収集・整理をめざした。

（２）ICAE 本体に関する情報収集の継続と各リージョンへの働きかけに関する調査

すでに以前から行っていた ICAE 本体の参与観察と資料収集を継続した。まず、2015 年 ICAE 第 9 回世界大会に参加し、ワークショップでの報告、同世界大会のまとめとして全体会で提示された提言案に対するその場での意見の表明、世界大会に続く ICAE 総会での運動方針に対する意見表明など、積極的な参与観察を行った。さらに、カナダのオンタリオ州アーカイブズに ICAE に関する貴重な１次資料が保存されていることが分かり、この情報収集に力を注いだ。

（３）ICAE 及びそのリージョン組織の発展と関わる国際会議、国際施策、国際的運動に関する調査

ICAE 及びそのリージョン組織の発展と関わる国際会議、国際施策、国際的運動に関する資料収集を行った。2016 年の世界社会フォーラムでの ICAE 関係企画に参加した。また 2017 年 10 月に開催されたユネスコ主催第 6 回国際成人教育会議中間総括会議と、

ICAE がこの中間総括会議の直前に開催した市民社会組織フォーラムにも参加した。さらに ICAE がその運動の推進方法と関わらせて関心を寄せていた Education for All、Sustainable Development Goals に関する情報収集も行った。ICAE や ICAE に関わるリージョン組織が、ユネスコ会議やその他のユネスコ及び国連関連の政策運動にどのように関わっているのか、参与観察ほかで検討した。

（４）リージョン組織調査の観点の解明

リージョン組織の概要把握はまだ中途段階ではあったが、2018 年には、当面の収集情報をもとに、既存の各リージョン組織の確認と、また ICAE のリージョン組織に対する関わり方にも注目し、今後、さらに調査を進めるための観点の解明を試みた。

４．研究成果

（１）各リージョン組織の調査結果

アジアリージョン組織については、1964 年に発足、ICAE 発足のあゆみと関わり、また現在、ICAE に加盟するアジア・太平洋リージョンのリージョン組織であり、ICAE と連携して、現在も活発に活動を展開している ASPBAE（発足当初の名称は「アジア太平洋成人教育事務所」で、その後、2008 年に、略語は変えずに「アジア太平洋成人基礎教育協会」と名称を変更した）に焦点を当てて調査を行った。ASPBAE は 2014 年に創設 50 周年を迎え、自らその歴史を振り返るセミナー等が 2013 年から取り組んでいた。報告者はこのセミナーに傍聴者として参加することを許され、すでに参与観察を行っていた。本研究期間中には 2014 年 11 月に、この取り組みを集大成する集会が創立 50 周年記念大会として開催された。報告者はこの大会にも参加して情報収集するとともに、2013 年のセミナーの傍聴経験も活かしつつ、ASPBAE 自身による総括の報告（パネルディスカッション等）についての参与観察を行った。また、2013 年以来の総括プロセスで公表されてきた冊子及び 2013 年のセミナー時の議論も合わせて、その再検討を行った。

ASPBAE の第３代事務局長、クリス・デューク氏が ICAE と連携して ASPBAE の組織的活動を本格化させたこと、90 年代以降、運動の主要な担い手として、社会運動の担い手や女性が活躍してきたことは、2013 年に参加したセミナーや、同時期行ったデューク氏へのインタビューと文書での回答による調査から了解していたが、ASPBAE 自身がそのリージョン内の各国成人教育運動を支援する具体的な事例を、2014 年の創立 50 周年大会時、ミャンマーの成人教育運動の担い手を支援しているに至る過程とその実際の展開を直接、見聞きすることができた。但し、このような ASPBAE の発展史の特徴を確定するより正確な証言とそれを裏づける資料については、なお入手が不十分であり、特に 1990 年代後半以降にその発展の要となった人物へのインタビューについて、その承諾を得ながらも、日程調整ができず、本研究の研究期間ではそれを行うことができなかった。

ヨーロッパリージョンについては、現在のヨーロッパ成人教育協会（EAEA）について焦点を当てて調査した。EAEA も ICAE 創設以前から発足しており、当時の名称はヨーロッパ成人教育事務所（EBAE）だったが、これも 1998 年に名称を現在のものに変更した。同協会については、報告者はすでに 2013 年に同協会主催のセミナーに参加し、さらにその折、ブリュッセルにある同協会事務所を訪問し、同事務局長に簡単なインタビューを行った。しかしこのインタビューでは同協会の発展史に関わるデータ、一次資料等の情報を得ることができなかった。本研究では改めてこれまでに入手していた、EBAE 創設から EAEA へと名称変更するまでの時期の歴史をまとめた小史,*FROM BUREAU TO ASSOCIATION, A SHORT HISTORY 1953-1998*（Bax,Bill ed., 1998,EAEA）をもとに、同協会の 90 年代までの歴史の

概要と同協会自身の課題意識の展開に関する分析を試みた。ここからこのリージョン組織（EBAE）は1949年のユネスコ第１回成人教育会議をきっかけにして、その後、実施されたセミナー等を得て発足したことを確認できた。また発足後は独自に活動を展開していったが、ICAEの発足後はICAEの活動に徐々に参加し、ICAEのリージョン組織として位置づいていったこと、さらにICAEの求めに応じ、イスラエル成人教育協会をICAEのヨーロッパリージョン枠内で、EAEAのメンバーとして迎え入れたことなど、興味深い情報も得られた。しかし、これらの情報はこの時代を熟知している人物による叙述にもとづくもので、それを裏づける資料収集はまだ達成できなかった。

北アメリカリージョンについては、ICAE の現在のメンバー組織リストでは North American Alliance for Popular and Adult Education（NAPAE）がその組織と今なお記されているが、この組織の担い手だった人物に対し2004年に報告者が行ったインタビューにおいては、当時すでに消滅していると聞いていた。それをゆるやかに跡付ける、同組織発行「通信」の発行履歴からもそのことが推測されたが、消滅の経過は不明だった。その後、2009年のユネスコ第６回国際成人教育会議を前に、トロント成人学生協会の代表スー・ネイルソン氏がNAPAE所属として北アメリカリージョン枠の副会長とされたことがあったが、復活したという実態があったかどうかは不明で、2015年のICAEの理事・役職選挙でNAPAEにはまったく言及されておらず、存在していないように思われた。

このような経過を確認するために報告者がこれまでとってきた探索方法は、ICAEの発起人であるロビー・キッドが第２代事務局長を務めたこともあり、ICAEと関係が深いと想像されるカナダ成人教育協会（英語圏）（CAAE）について調べることであったが、この協会も報告者が調査をはじめた2004年にはすでに消滅し、かつ当時、カナダの成人教育研究者の間でさえその消滅の理由は明確になっていない状況だった。同協会が発行してきた「通信」等の探索によっても消滅の時期と理由を確認することできなかった。報告者はこの協会の消滅の経緯把握がこのリージョンでの組織の盛衰の経緯把握にとって重要だと当時から考え、この消滅問題にこだわり、同協会消滅時に関わっていたのではないかとの情報を得た二人の人物に2006年連絡をとり、そのうちの一人と１時間ほどのインタビューを行うことができた。しかし得られた情報は口頭のみであり、この人物からさらに、自分の説明はあくまで自分の見解なので、他の関係者にも意見を聞くことが必要だと示唆された。

本研究ではそこで、まず当時連絡が実現できなかったもう一人の人物に働きかけ、インタビューを行うことにこぎつけた。また関連する資料について探索し、カナダオンタリオ州立アーカイブズに、消滅の経緯を裏づける当時の第１次資料があることを発見した。この探索過程で、関連してICAEの当時の第１次資料も発見し、そこから北アメリカリージョンの組織の盛衰に関する第１次資料の一部も入手することができた。

これらの調査によって、North American Alliance for Popular and Adult Education の2000年前後の消滅は、それに先立つ英語圏のカナダ成人教育協会の消滅、また1990年代中頃の ICAE 消滅の危機と同様、1990 年代の財政削減を理由とする、活動支援のための公的補助金の削減によるものという表面的な理由を超え、成人教育の国際的運動を進めていく上でのより本質的な問題があったのではないかとの感触を得た。すなわち、North American Alliance for Popular and Adult Education というリージョン組織はもともと数名の意欲的な人物を発起人とする非常に緩やかな組織で、活動展開の資金はICAEの活動に連動したものに依存し、その資金繰りが次第に厳しくなっていたこと、さらに中心的な担い手が活動の方向性を変更したことなど具体的な動きが見受けられ、これらをさらに明

確に解明し運動論等にもとづいてその意味を分析する必要があることが鮮明になった。

ラテンアメリカリージョンについては、現在の ICAE のメンバーリストでは、複数の組織が挙げられているが、タイトルから伺われる活動内容からみてラテンアメリカ成人教育会議 Consejo de Educación de Adultos de América Latina (CEAAL)が中心的リージョン組織と思われ、これについて情報収集を開始した。事務所訪問やインタビュー等は行うことができず、ネットでの情報収集に努めた。これによって分かったのは、CEALLA は現在、自らをラテンアメリカ・カリブ海ポピュラー・エデュケーション会議 Consejo de Educación Popular de América Latina y el Caribe とも名乗り、メンバーの分布、組織内のリージョン把握から、ラテンアメリカのみではなく、カリブ海リージョンも対象地域として位置づけていることであった。さらに ICAE 本体の既入手情報の詳細分析から、当該リージョンの組織結成のための支援が、ICAE 発足後の早い時期からあったことも確認できた。また CEAAL は 1982 年に創設されたことも分かった。そこで、この時期の ICAE の活動と CEAAL 創設との関係、また、CEAAL がいつ、何故ポピュラー・エデュケーションの名称を表明しはじめたのかなど、さらに解明する課題が具体化してきた。

カリブ海リージョンについては唯一、Caribbean Regional Council for Adult Education (CARCAE)が現在の ICAE のメンバーリストに表記されているが、本研究期間ではこの組織の情報を入手することができなかった。

アフリカリージョンについては ICAE の同リージョン組織が複数あり、Pan African Association for Literacy and Adult Education (PAALAE)がその名称から推測される活動内容からみて、もっとも代表的なリージョン組織と思われたが、現状の実態はつかめなかった。また 2009 年の第 6 回国際成人教育会議にむけて報告書をまとめた AFRICAN PLATFORM FOR ADULTEDUCATIO についても注目したが、これはアフリカリージョンの複数の組織のネットワークのように見受けられ、当時、まだ確固とした組織としての実態をもっていなかったのではないかと推測され、かつ、現在、その所在を確認することができなかった。なおアフリカリージョンについては、ICAE 創設当初からすでにアフリカ成人教育協会があり、ICAE のリージョン組織として明記されていた。しかし、現在、ICAE のメンバーリストにその名称はなく、その後の同協会の足跡と今日のリージョン組織との関係など、解明すべき課題として把握された。

アラブリージョンについては、現在 ICAE がメンバーとして公称しているリージョン組織は三つあり、代表するものは特定できない状況にある。なお、このリージョンについては、本研究において、さらに情報収集することはできなかった。

（２）ICAE とリージョン組織との関係

ICAE は創設以来、リージョンごとの組織をメンバーと位置づけ、そのような組織がないところではその組織化に努力してきた。これは ICAE の毎年の事務局長報告から読み取ることができる。しかしホームページでの 2005 年時の公称ではアフリカ、アラブ、アジア、カリブ海、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、北アメリカの７つのリージョンが提示され、それぞれのリージョンに一つずつの組織名が明示されていたが、現在ではリージョン組織のリストに複数名が列記されているリージョンもあり、ICAE との関係でリージョンを代表する役割を果たす組織がないリージョンがあり、本研究でのリージョン組織の概要把握から、北アメリカ、アフリカ、カリブ海、アラブリージョンではなお、その変化・盛衰が大きく、その歴史把握には相当の工夫がいることが分かった。その上で、改めて、リージョン組織一般について、また、リージョン組織と ICAE との関係について、現状の限定的な情報把握

という制約内での考察ではあるが、本研究で以下の点が確認できた。

①ICAE によるリージョン組織への関心と支援の意図

ヨ-ロッパリージョンの調査から、ICAE が 1980 年代、EBAE のニュースレターの発行に資金援助をし、ノースアメリカリージョンの運動とヨーロッパの運動をつなげる努力をしたことがあったことが分かったが、ここからは、ICAE のリージョン組織に対する支援活動が、国際組織としての ICAE 自体の強化のために行われたのではなく、個々の成人教育運動の交流それ自体の価値を認識し、その促進の方法としてとらえられていたと理解できるのではないかとの仮説を得た。また、ICAE は前述のようにイスラエル成人教育協会をヨ－ロッパリージョンに入れ、EBAE への加盟受け入れを促した。この斡旋は、他方でパレスチナ解放戦線（PLO）のアラブリージョンでの受け入れと関連していたとも説明されていた。さらに ICAE は当初、アフリカのリージョンについてはフランス語圏の国々独自の組織化も構想していた。そこで地理的区分に拘束されない、成人教育運動独自の観点からのリージョンの括り方もありうるとの認識を得た。

②リージョン組織の活動の特徴

ICAE のリージョン枠を代表するリージョン組織として想定できる三つのリージョン組織、ASPBAE、EAEA、CEAAL の情報をもとにした仮説だが、以下のようなことが分かった。

まず第１に、リージョン組織は ICAE の下部組織として存在しているのではなく、その創設過程はそれぞれのリージョンでの成人教育運動の交流の必要性の自覚から生まれたものであったことである。また、第２に、リージョン組織それ自体がセミナーや調査、提言などの独自の活動を行って、リージョン内の各国の成人教育運動を支援する立場をもって活動を展開し、組織を運営していることである。第３に、ASPBAE と CEAAL はリ－ジョン内でさらにサブリ－ジョン枠を設定してメンバーを構造化してとらえており、ASPBE はさらにこのサブリ－ジョンごとに理事を選出して組織運営を行うという域内のバランスに配慮していることも分かった。第４には、EAEA は EU への政策提言などリージョン独自の域内の政治構造に積極的に関わっていることも確認できた。

③リージョン組織の ICAE の影響

ICAE は第２回世界大会（1982 年、パリ）では女性運動、平和運動と、また第３回世界大会（1985 年、ブエノスアイレス）ではポピュラー・エデュケーションの運動及び軍事独裁政権と闘う運動と密接に交流する機会を得て、自らの運動理解に大きな影響を受けている。ICAE がリージョン組織から影響を受けたと思われるこの時期について、同時期、ICAE が資金調達の支援をすることで、EAEA がニュースレターを継続して発行できるようになったこと、また CEAAL が 1982 年に発足したことに注目し、当時のそれぞれのリージョン組織の状況を調べることで、上記のようなリージョン組織からの ICAE への影響の意味をより深く検討できるのではないかと思われ、本研究ではまだそこまでの調査・分析を行うことができなかったが、検討すべき有効な題材であることが確認できた。

５．主な発表論文等

〔学会発表〕（計　１　件）

①荒井容子「成人教育に関する国際的運動の展開におけるリージョン組織の意味
－国際成人教育協議会及びそのリージョン組織の発展過程を事例として－」
発表した学会名　日本社会教育学会第 65 回研究大会自由研究発表　於　名桜大学
発表した年月日　2018 年 10 月 6 日

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。